

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4490100148 | | |
| 法人名 | 株式会社 優華 | | |
| 事業所名 | 優華 グループホーム 戸次の里 | | |
| 所在地 | 大分県大分市中戸次4287番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年3月20日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年5月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100148-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人第三者評価機構 | | |
| 所在地 | 大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館 1F | | |
| 訪問調査日 | 令和4年3月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに小学校や公園がある閑静な住宅地に立地し、平屋建てで職員も入居者もユニット間での交流がとりやすい。行事・食事・外出・五感で四季を感じていただけるように取り組んでおります。また、ご家族、ご本人が希望してくだされば、最期まで過ごせるように医療機関と連携して看取りができる体制を整えております。施設の改善・職員のスキルアップを図るために施設内研修も継続して実施しており、職員間で和気あいあいとしながらも活発な意見を出し合い、知識・技術の向上を図りながら職員間の繋がりをしっかりと作れる充実した時間を作っています。入居者の方には面会時間の規制を行わず、ご家族が自由に面会できる環境を整えている為ご家族の面会頻度も多くなっています。コロナ禍ではありますが、感染防止対策を取りながら面会いただける環境を整え、面会の機会を設けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設以来、地域や家族と歩んだ実践の積み重ねが功を奏し、利用者の日々は充実していましたが、コロナ禍により状況は一変しこの1年は感染症対策に心を砕いて来ました。外出などが出来ない分内に目を向け、大切にしている気持ちを日々支援の中で伝え利用者が満足する取り組みやレクリエーションを工夫しています。家族の面会も短時間ではありますが実現させ、ホールに利用者一人ひとりの「思い出ノート」を置き、日常の暮らしぶりを写真とともに記載され、家族の喜びと安心に繋げています。今年度は管理者の交替もあり、前管理者の思いを引き継ぎ、職員とともに笑顔と思いやりのある対応で温かく、穏やかな毎日を提供できるよう職員全員で取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 戸次の里3つの理念を唱和し、新入社員でも理解出来るように説明している。 | 事業所では、独自の理念(3項目)を策定し、職員が介護支援に当たる際の心構えとしています。玄関や事務室に掲示し、朝礼時の唱和とともに、理念の共有と実践に繋がっています。 | 事業所独自に作成した理念は、職員の支援の柱であり、事業所の方向性を示しているものなので、パンフレットや毎月送付される家族へのお便りに掲載する等して利用者や家族にも知らせて理解を促すことが望まれます。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域行事への参加・見学や、当施設での夏祭り・餅つき等の行事への地域住民の来所、参加をと大切にしています。また認知症カフェへ参加させて頂いております。 | 事業所は地域との関係継続を大切にしており、地域の人々の意識の中にしっかり定着してきています。ここ2年はコロナ禍の影響で、交流のきっかけになる行事が実施されていませんが、外出(散歩)時に近隣の方と挨拶を交わす程度の交流を行っています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 戸次・吉野包括支援センター主催の『認知症ネットワーク協議会』の運営委員として携わっている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 今年度は実施出来ていない。 | 家族代表・行政・地域包括支援センター担当者・地域代表・公民館長等のメンバーで会議を開催していましたが、現在はコロナ禍と管理者の交替等で1年間運営推進会議は開催出来ていません。 | 運営推進会議は行政や地域・家族等を結ぶ貴重な機会であり、出された意見を事業所の質の向上に具体的に活かすためにも、書面開催等で会議を継続されることを期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 大分市への報告事項、不明な点は電話にて事業推進班の方へ尋ね、丁寧に助言を頂いております。運営推進委員会に出席して頂いた時には、介護保険改正について、他運営推進委員への詳細な説明も頂きました。 | 市の担当者とは、電話・FAX・メールにて情報交換を行い、相談や報告等のやり取りをしています。市からはコロナ関連の情報等がメールで送られて来ており、密な協力関係を築くよう取り組んでいます。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 夜間・早朝のみ玄関は施錠している。『身体拘束等の適正化のための指針』について職員全体で理解・共有出来るように施設内研修の際に、再度周知徹底を図っている。 | 身体拘束廃止及び虐待防止について年2回以上施設研修を行っており、「身体拘束等の適正化のための指針」を職員会議議事録に添付し会議やカンファレンス時に具体的な事例とともに積極的に検討され、見直しがなされています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内研修のテーマとし、虐待につながる原因について話す機会を持ち『してはいけないこと』ということだけではなく、職員が精神的に追い込まれないようにフォローしあえる人間関係を構築できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者においては相談窓口の把握や、パンフレットを準備し必要性について関係者と話し合いを実施し活用できるように取り組んでいます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居が決まれば事前に重要事項と契約書の内容について1項目ずつ説明をし、1度持ち帰って再確認してサインをいただくようにしている。介護保険改正に伴う内容変更があれが同様に行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者と個々に話をする時間を取り、面会時や電話連絡時に、ご家族と連絡を密にとり『話しやすい雰囲気』や関係構築に努め、頂戴した意見は職員で共有し、運営に反映できるようにしている。 | 利用者・家族の意見・要望は、日頃の会話の中や、電話連絡時に把握しており、出された意見等は職員間で共有し、運営に反映しています。その中で面会を希望する家族が多く、コロナ感染対策を徹底し短時間での面会を実現しています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 会議や面談、日々の勤務の中での職員からの意見や提案があれば管理者が傾聴し、組織としての検討項目があれば、代表者に相談している。 | 管理者は日々の勤務の中で、職員とのコミュニケーションを図り、申し送りノートを介して情報共有し意見や要望を法人へ上申される体制を取っています。管理者と職員間の風通しが良く、意見を出しやすい環境が、働き易さに繋がっています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の休みの希望や育児中の職員を考慮した勤務表を作成し、資格取得希望者や研修受講の為の勤務配慮を行っている。年2回の自己・上司評価を行い面談を実施している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 月一回の施設内研修を行っている。半年ごと職員個々の目標をたて、反省、次期への目標を上司と共に話をする機会を設けている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 近隣施設との情報交換を行い、外部研修を通じて他事業所の職員との交流を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前に、ご本人にも来所して頂き、施設内や居室を見学して頂いている。事前にお会いし、出来るだけ不安に感じていることや要望を汲み取れるよう努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前、入居時にゆっくりご家族の意向や、不安を伺う時間を設けるようにしている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人や、ご家族の要望を伺い必要な支援と職員が行えることを説明し支援している。入居後は他の介護保険サービスは利用できない為、医療や社会資源等の利用が活用が出来ないかを検討している。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個々の生活歴や生きがい、残存機能を把握することに努め、掃除、洗濯などその方に来ることを見つけ、一緒に行い、職員からお礼の言葉をかけている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご本人の日頃の生活の様子や体調の変化を細目に連絡し、必要時にはご家族の付き添いで受診していただいたり、主治医からの説明と一緒に聞いていただいている。ご家族付き添いでのお出も行って頂いている。 | | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族以外の知人や在宅生活時の近隣者の面会も、いつでも可能であることを、ご家族に伝えている。来所時には各居室で、ゆっくりと過ごしていただけるように配慮している。 | コロナ禍にあり、外出の制限や家族の面会も出来ない状況でありましたが、時間制限の面会等家族中心で実施しています。その中で馴染みの関係者に状況を伝えて頂くよう家族に協力を求め、関係継続に努めており、職員の支援で、利用者が馴染みの人に電話や手紙(年賀状)を出しており交流を続けています。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居所同士の人間関係を把握し、交流が少ない方に対しては職員が間に入り孤立しないように努め、両ユニットの入居者が集まり交流できるようにしている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設へ転居される場合には、情報提供をしっかりと行い、当施設で看取りでの退居となったご家族が、訪問して下さり行事開催の支援をして頂いています。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の関りや会話の中から、希望・意向を聞き取り、言葉だけでなく表情や行動もしっかり観察し、本人の意向に沿える支援に努めている。 | 利用者は日中の大半をリビングで過ごされており、職員はそばに腰を下ろしながら普段の会話を通して思いを把握しています。会話の少ない利用者には、職員が関心をはらい把握するよう意識を高めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 幼少期からの生活歴や生活習慣、家族関係等の情報収集に努め、入居者との会話や支援に活かしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する方等の現状の把握に努めている | 残存機能をしっかり把握し、日々の個々の体調や、ペース、生活スタイルに合わせて過ごしていただけるように支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員会議で、ご家族の意向や要望を職員間で共有し、個々のケア会議を行っている。急な身体状況や病状の変化があれば、ユニット主任を中心に詳細な介護計画の変更をし、申し送り時に職員間で情報共有している。 | 日々の申し送り時に職員から情報を把握し、毎月のカンファレンス(モニタリングを兼ねて)や、ADL・コミュニケーション能力等を参考に介護計画を作成して、6ヶ月毎に見直しを行っています。利用者個々の介護記録の前に介護計画をつづり、サービスが提供出来ているか評価しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別記録は毎日記入している。『今、観察すべきこと』に関しては、詳細な記録をし、少しの変化も職員で共有し、細かな介護計画変更も迅速に行えるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 散歩や買い物等、出来る限りの個別対応を行っている。また、急な体調変化での受診付き添いは、ご家族が対応できない時は、職員が付き添っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進委員や地域包括支援センターから地域の情報提供を依頼し、個々の力に合わせて、行事等に参加させていただき、豊かな暮らしの支援に繋げている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に、かかりつけ医の選択は自由であることを説明している。入居者・ご家族が選ばれた医療機関と連絡を密にとり、定期訪問診療や受診日以外にも必要時には直ぐに連絡し支持を仰ぎ、適切な医療を受けられるように支援している。 | 入所時、利用者・家族と話し合い馴染みの医師による継続的な医療を受けられるよう、医療機関との関係を密に、訪問診療や通院の必要が生じた時には家族と連絡を取り、家族による通院が無理な時には、職員が対応して適切な医療を受けられるように支援しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 契約に基づいた訪問看護ステーションの定期訪問時に、入居者の体調変化を報告・相談し、指示助言をいただいている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には、入居者の情報提供に努め、入院先の連携室や相談員と連絡を密にしている。病院の相談員も治療経過やカンファレンスの内容、医師からの説明等を連絡してくれる。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時、看取りの指針について説明している。体調に変化があれば主治医が家族に病状説明、今後起こりうる事を解りやすく説明してくれる。ご本人、ご家族が希望すれば、当施設で看取りを行い、その際は主治医、訪問看護師、ご家族と協力して支援している。 | 重度化や終末期における看取りの指針について、家族の希望を汲み取り意思確認を図り事業所にて出来る支援を行っています。主治医・訪問看護師・家族と十分に話し合い、協力体制を整えてコロナ禍のいま、予防対策を講じて看取りを行っています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 月1回の施設内研修で、骨折、出血、誤嚥等の緊急時の対応について、実技も取り入れ繰り返し学ぶ機会を設けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回避難訓練を行っている。運営推進委員に避難訓練の様子をみてもらい、アドバイスを活かしている。避難確保計画の見直しとともに、マニュアルの再確認も職員と行っている。 | 年2回、災害時の避難誘導訓練を行っています。災害発生時の備蓄品の管理や避難誘導経路の見直し、水害・火災・地震等に応じた対応策をより強化する為のマニュアルを見直す必要があるとの認識を持ち、職員全員で情報共有する事に努めています。 | 災害発生時に、同じ敷地内にある事業所への避難が比較的安全に行えるので、車椅子利用者や自力歩行が困難な利用者の為に、水災が多い地域ということを踏まえた上での、マニュアル作成を期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 親しみある会話の中にも、言葉遣いに気を付けている。職員同士で、お互いに気になる言葉や口調について、気づきあえるようにしている。 | 利用者との日常の会話で、その人らしい表現方法や思いを伝えるものとして、大声や激しい口調のときにも親しみのこもった会話を心がけ、優しい言葉かけやプライバシーに配慮した支援が出来るよう、職員全体で気付いた事を話し合っています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人が自己決定しやすいよう、言葉を工夫した声掛けを心掛けている。補聴器使用の支援や筆談をしたり、まずはしっかりとコミュニケーションをとれるようにし、ご本人の思いを表しやすいように取り組んでいる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来るだけ生活リズムが整うように支援しているが、時間にとらわれず、その日の気分・体調を観察しながら、ご本人のペースで過ごしていただけるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 美容師さんに訪問して頂き、個々の希望に沿った髪型にさせていただいてる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 3食とも介護職員が施設内の台所で調理し、同じ時間に同じテーブルで食事をしている。お茶碗・お膳拭き、下膳等、入居者が主となりおこなってくれることもある。 | 毎日の食事は、職員が三食手作りしており職員も同じものを食べる事により、気付きや改善点が得られ、利用者の食事の中のむせや呑み込みが難しくなった時に適切な対応が出来るよう支援しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 全入居者の毎食の食事摂取量を記録している。必要に応じて水分摂取量も記録し、お茶の飲用がすすまない方は、ジュースやコーヒー等、好みの物を把握し、準備・提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている。個々の能力に応じて支援し、歯、義歯の無い方も口腔ケアスポンジを利用し、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 全入居者、排泄チェック表を記録活用している。排泄パターンを把握出来るように努め、尿意の訴えがない場合にも、その前の排尿時間をみてトイレ誘導を行い、トイレ排泄に繋げている。 | 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握出来るよう、きめ細かいチェック表を記録する事で、排泄が気持ち良く行えるよう支援しています。軟便による失敗や便秘気味な利用者は、医師から薬の服用や牛乳の摂取など対応しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 施設内研修で身体の仕組みや便秘の原因等を学び、腹部マッサージ、水分補給を行い薬だけに頼らない便秘予防に努めている。排泄チェック表で排便の有無を確認し、個々に合わせて下剤の服用を支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週2回は入浴していただけるような予定は立てているが、希望や体調に合わせて回数を調整している。 | 週2回の入浴となっておりますが、拒否の利用者には家族や職員と話し合い、無理のない対応を行っています。浴槽に入れない利用者は、シャワー浴で清潔を保てるように支援していますが、冬場の寒さ対策に努めています。 | 車椅子利用や浴槽に自力で入る事の出来ない利用者の複数の家族から、浴槽内に入れるように機械浴の導入を検討して欲しいとの希望がありました。入浴拒否の軽減対策として前向きな対応を期待します。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 体調・体力に合わせて日中の活動・休息を支援し、生活リズムが整うように努めている。ご家族に協力してもらいながら、季節に応じた寝具類を準備し、汚染時は直ぐに洗濯し、清潔な寝具で眠れるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬局から頂く薬の写真付きの説明書をファイリングし、全職員がいつでも確認出来るようにしている。薬の変更時には申し送りや記録で周知し、変更後は身体状況の観察をし、主治医に報告している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の生活歴や、得意な事、こだわり等を大切に、生きがいや楽しみとなる時間をとれるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご家族との外出は、いつでもできる。可能な限り希望の時間に散歩や買い物に付き添えるようにしている。 | コロナ禍のため、通常の外出は出来ませんが利用者の個性を尊重し、少しの時間でも近所への買い物や家族同伴で外出が出来よう、感染防止策を図り安全面を重視して、日常的に外出が出来るよう支援しています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個々の管理能力に応じたお金の管理を、ご家族と話し合っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望時には、ご家族に負担のない時間に配慮して電話支援している。携帯電話を持ち込まれている方に対しては機器の操作支援も行っている | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 手作りのカレンダーホールに掲示し、日にちを確認しやすいように工夫している。施設内は常に清潔であるように努めている。陽射しが強すぎる時はカーテンで細目に調節している。 | 一日のほとんどを過ごす共用空間は、季節の花や行事の飾り物を利用者と一緒につくり飾っています。共用空間は利用者の好みの場所でゆっくりと自分のペースで過ごして頂いています。換気や温湿管理・トイレ周辺の清潔を保てるよう支援に努めています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 椅子多めに準備できている為、ベランダ側や窓側に動かし、お一人で過ごすことも出来れば、ソファで一緒にテレビを観たり出来る場所もある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご自宅から使い慣れた物やなじみの家具を持ち込んでいただいている。また、ご自宅で過ごしていた時の生活スタイルに合わせてベッドではなく布団を使用している方もいる。 | 入所時、利用者の大切にしている物や馴染みの家具などを持ち込み、安全面に配慮し自由な居室作りをして頂いています。布団持参の利用者には、シーツ交換や部屋の掃除を週に一度入浴日に行うなど、居心地良く過ごして頂けるよう支援しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ、浴室、ホールに手すりを設置しており、残存機能を活かした介助方法で支援している。居室内のベッドの向きやテーブル席の配置も個々の力を活かしやすいように工夫している。 | | |